

IV. 結 論

本邦でも小児の高脂血症の頻度が解明されつつあり、約5~10%とみられている。今回の成績でも男子は約4%であるが、女子は14%の高い数値が得られた。この生徒達が将来如何なる経過をとるか長期的観察によらね

ばならない。しかし今回の成績で見ると、高校生に於ても危険因子をかなり多く保有する例が少なくないことが明らかにされた。これらの危険因子に対する対策及び健康教育が必要と考えられる。今後は危険因子問題と、HDL との関連を推進する予定である。

東京都三宅島における学童の血清総コレステロール値と一部体位異常児の HDL-CH について

東京女子医大第2病院小児科 草川 三治 村田 光範
藤田 幸子

I. はじめに

成人の動脈硬化症や虚血性心疾患が、高脂血症に多発することから、その対策は、小児期より始めなければならないと考えられるようになり、小児期の高脂血症に対する関心が高まってきている。

今回、私達は、東京都三宅島において、昭和52年7月と11月に、小中学生の血清総コレステロール値(T・CH)と高比重リポ蛋白(HDL-CH)を測定する機会を得たので、これら二つについて検討した。

II. 対 象

東京都三宅島の6才から15才までの小中学生、男子104名、女子114名について、昭和52年7月、T・CHを測定し、そのうち肥満度20%以上のいわゆる肥満児と、T・CHが200mg/dl以上を越えた者49名(男子21名、女子28名)について、11月にHDL-CHを測定した。

III. 方 法

T・CHは、Zurkowski法で測定した。HDL-CHはヘパリンマンガン法で分離し、酵素法で測定した。

V. 結 果

① T・CHが200mg/dl以上を高コレステロール血症とすると、高コレステロール血症の頻度は、肥満度20

表1 三宅島血清総コレステロール平均値(mg/dl)

年齢	性別	
	男	女
6才	(8) 165.9±26.4	(6) 172.0±22.8
7才	(16) 161.2±24.3	(15) 168.3±18.1
8才	(17) 162.1±16.1	(18) 172.2±27.9
9才	(13) 173.2±21.3	(15) 165.5±24.0
10才	(13) 175.8±27.7	(15) 154.7±28.2
11才	(14) 161.4±27.8	(16) 169.8±16.2
12才	(12) 161.8±24.0	(16) 170.9±31.1

()内は例数 測定は Zurkowski 法による。

表2 HDL-CH

年齢	性	肥満児	肥満でない者
6—9才	男	(3) 69.4±14.7	(4) 74.8±7.2
	女	(4) 67.4±14.4	(9) 75.7±11.9
10—15才	男	(10) 62.5±9.4	(4) 61.7±10.5
	女	(8) 65.8±8.2*	(7) 77.9±9.7*
6—15才	男	(13) 64.1±10.6	(8) 68.3±10.9
	女	(12) 66.4±10.0*	(16) 76.7±10.7*

()は例数 * : 5%以下の危険率で有意の差あり。

%以上のいわゆる肥満児では、男子11人中3人(27.2%)、女子13人中3人(23.1%)であり、肥満度20%以下の学童では、男子93人中7人(7.5%)、女子101人中10人(9.9%)であった。即ち、肥満児では、肥満でない者に比べ、男女ともに、有意の差で高コレステロール血症

を認めた。

② 肥満度 20% 以下の学童, 男子 93人, 女子 101人, 合計 194人について, 年令別, 性別に T・CH の平均値を求め, 表 1 に示した。年令別, 性別には, 特に一定の傾向は示していない。

③ HDL-CH の平均値を表 2 に示した。女子では, 肥満児は肥満でない者に比べ HDL-CH は 5% 以下の危険率で有意に低値を示した。また, 高コレステロール血症を示した女子では, コレステロールが正常な者に比べ HDL-CH は高値を示した。

④ T・CH から HDL-CH を差しひいたもの, 即ち主に LDL と VLDL であるが, これと T・CH は, 正

の相関を示した。

V. ま と め

最近, HDL-CH と動脈硬化症や虚血性心疾患についての研究がさかんであるが, 小児期の HDL-CH についての報告は少ない。今回, HDL-CH の検査対象人数は 49名と少数であったが, T・CH と HDL-CH の関係は, 成人にみられるものと類似していた。また前回, 東京都奥多摩地区で行った T・CH は三宅島に比べ, 全体に高値を示していた。奥多摩地区での T・CH の高値が何に由来するのか, 今後, T・CH と HDL-CH との関係についても, 検討を加えたい。

正常小児および糖尿病小児の血清コレステロール値に関する研究

日本大学医学部小児科(駿河台) 北 川 照 男

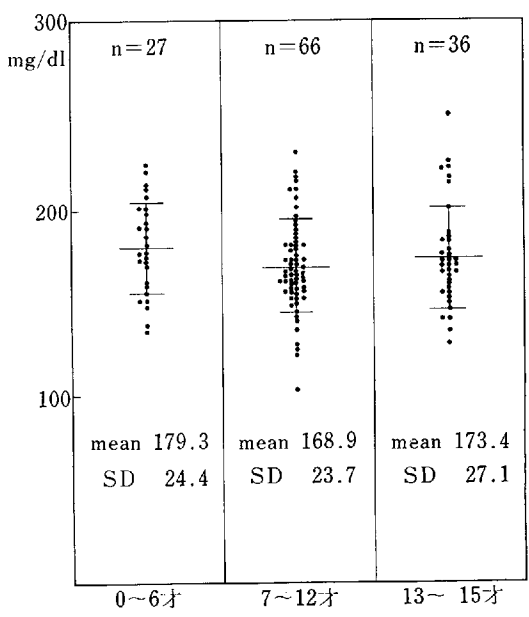
1. 腎, 肝, 代謝異常など血液脂質に影響すると思われる疾患を除く外来患者 129 名について血清コレステロール値を測定した。猶測定法は Zurkowski 変法によったが, 同時に酵素法による値とを比較して, 前者は後者に比しやや高値を示すが, その差は 5 mg/dl 程度であった。

測定結果

- 乳幼児 (n=27) 179.3±24.4 mg/dl
- 小学生 (n=66) 168.9±23.7 mg/dl
- 中学生 (n=36) 173.4±27.1 mg/dl

の値を得た。対象は肥満度 20% 以内, 血清蛋白の異常, 貧血などその他の諸検査に異常がないので健康小児の総コ値と考えられる。この中 200 mg/dl 以上の高コ血症は乳幼児に 7 名, 小学生に 8 名, 中学生に 6 名に認めた。

2. 肥満型糖尿病患者の血清コレステロール値。肥満型糖尿病の小児 12 例について, 肥満度, 空腹時血糖, 総コレステロール及び T. G. を測定し, 経時的に追跡した。女児 7 例, 男児 5 例, 年令 13~15 才, 肥満度は 20% 代 3 例, 30% 代 5 例, 40% 代 3 例, 50% 代 1 例である。肥満度 20% 代のものはそれ以上のものに較べ明らかに血糖, 血液脂質の異常は軽度であった。しかし肥満度の血糖, 血液脂質に対する一定の相関は認められなかった。



(日大小児科)

(腎疾患, 肥満症, 糖尿病, 糖質, 脂質代謝異常症を除く)
測定法: Zurkowski 変法, 正常値 130-250 mg/dl
図 1 昭和52年度 外来患者の血清コレステロール値

↓
検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります
↓

.はじめに

成人の動脈硬化症や虚血性心疾患が、高脂血症に多発することから、その対策は、小児期より始めなければならないと考えられるようになり、小児期の高脂血症に対する関心が高まってきている。

今回、私達は、東京都三宅島において、昭和52年7月と11月に、小中学生の血清総コレステロール値(T・CH)と高比重リポ蛋白(HDL-CH)を測定する機会を得たので、これら二つについて検討した。